

## ドンタップ省タムノン県総合病院医療機材整備計画・引渡し式典

2014年6月12日

2014年6月11日（水）、日本政府による対ベトナム草の根・人間の安全保障無償資金協力「ドンタップ省タムノン県総合病院医療機材整備計画」（2012年度実施）の引渡し式典が、矢ヶ部義則・在ホーチミン日本国総領事館首席領事、ドンタップ省保健局グエン・ゴック・ナム副局長、タムノン県人民委員会ダン・キム・ホアン副委員長、タムノン県総合病院グエン・ヒエウ・ニャン院長出席の下、タムノン県総合病院（被供与団体）において執り行われました。

タムノン県総合病院は、県内唯一の第3次医療機関で、住民にさまざまな診療サービスを提供するための非常に重要な病院です。しかし、十分な医療設備が揃っていなかったため、他の病院への移送件数が年間25,000件と非常に多くなっていました。本件では約123,450米ドルの資金協力を通じて、タムノン県総合病院に手術用患者モニター、産科用患者モニター、ドップラー聴診器、画像処理装置・内視ライトセット、胃腸用内視鏡など最も優先度の高い12種類の医療機材を整備しました。

式典において、矢ヶ部義則首席領事は、「地域医療の改善に貢献できれば、幸いです。本件により、同病院がタムノン県の住民約11万人にさらに適切な診療サービスを提供でき、また、移送件数が約30%削減されることを期待致します。」と述べました。これに対し、ニャン院長は、「本病院が長い間待ち望んでいた各機材を、在ホーチミン日本国総領事館を通して、供与してくれた日本国民の皆様にご心より御礼申し上げます。住民が長期的にしっかりと医療を受けることが出来るよう、これらの機材を両国国民の友情と同様に維持に努めることを誓います。」と感謝の意を表明しました。



スピーチを行う矢ヶ部義則首席領事



テープカットの様子



本件で整備された医療機材



本件で整備された医療機材を使用している様子